

平成 29 年 6 月 22 日

## 平成 28 年度 学部教育の成果に関する アンケート調査の結果について

### 1. 調査の概要

この調査は平成 28 年度の学部卒業生を対象にして、学部教育の成果について質問したものである。実施期間は平成 29 年 2 月 8 日から 3 月 31 日までであり、卒業生 246 名に学内ポータルサイトを通じた web 調査により実施した。回収数は 130 名、回収率は 52.8%であった。回収率は昨年度の 45.3%、一昨年度の 40.8%と比較して上昇した。また項目内容や調査方法についても一部変更した。

### 2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について述べる。また項目内容や調査方法について変更したため、例年行っている、前年度との比較は控えた。

#### 1) 卒業後の進路について

進路先については 84.6%が希望した職種に就職しており、進路についての満足度は、83.1%（とても満足・満足を選択した割合）であり、比較的高い満足度が得られている。

#### 2) 大学在学中の学内外の活動について

大学での学習を「ユニットの専門科目の学習」「理系の基盤・共通科目の学習」「人文社会体育系の学習」「外国語・コンピュータ科目の学習」「サークル活動や友人関係など学内の活動」「アルバイトや社会的活動など学外の活動」に分けて、それぞれへの積極性を尋ねたところ、「サークル活動や友人関係などの活動」や「アルバイトや社会的活動など学外の活動」への評価が高く、授業科目における学習よりも高い値を示している。授業科目については、「ユニットの専門科目の

学習」の積極性が高いことと比較すると、低学年次に実施される科目への積極性が低い傾向がみられた。

入学後の能力や知識の変化については、「専門知識」や「コンピュータの操作能力」などの知識や技能に加え、「プレゼンテーション能力」、「コミュニケーション能力」、「人間関係を構築する能力」など汎用性の高い能力が向上していると向上したと感じる学生が多かった。その一方で、「外国語の運用能力」、「異文化の人々と協力する能力」については向上したと回答する学生は少ない傾向があった。

教育内容や教育環境に関する満足度は、「指導教員からの指導」や「ユニットの専門科目の学習」について、満足度が高い。これらと比較すると低学年次の科目についてはやや満足度が低い傾向がある。また、「学習支援や個別の学習指導」に対する満足度が最も低く今後の検討課題であると考えられる。

### 3) 帯広畜産大学の大学生活全般について

大学の教育目標の達成については、67.7%が「おおむね達成していると思う」と答えており、本学の教育目標がある程度達成されていると考える学生の方が多いことがわかる。

ディプロマポリシーに掲げた態度や能力について、「獣医・農畜産融合の視点から、食料の生産から消費に至る過程についての関心が高く、課題解決に向けて取り組む態度（DP1）」や「獣医農畜産の専門教育コースであるユニットの専門知識、技術及び課題解決に向けた基本的能力（DP3）」については、8割を超える学生が身に着いたと感じていた。しかし、「国際化社会で必要となる見識と基礎的コミュニケーション能力（DP2）」については、獲得できたと感じている大学生は半数程度に留まった。この結果は、「外国語の運用能力」、「異文化の人々と協力する能力」が高まったという学生の回答が少ないこととも合致する。

帯広畜産大学の大学に進学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」が43.8%、「どちらかといえば満足している」が49.2%であり、大半の学生が満足していることがわかる。

以上